

大阪インターナショナルチャーチ： ブルース・アレン牧師
ローマ人への手紙 7 章 18 節 - 8 章 4 節

Amplified Bible, Classic Edition (AMPC)&New American Standard Bible (NASB-1995)

(others as noted)

2024/01/14

義認：戦いとキリストにあつての自由

OIC の皆さん、お早うございます。

先週は、このメッセージを 2 回に分けました。 今週は、主の助けを借りながら、パウロが自らをイエスの喜びを持つ者... 聖霊に満たされた者... 父なる神の良心にあずかる者... でありながら、自らを惨めな者と呼んだ意味を、引き続き解き明かしていきたいと思ひます。

先週の復習：

「二つの性質の戦い」の項で、私は次の聖句を引用しました。(ガラテヤ人への手紙 5 章 17 節) - 「なぜなら、肉の願うことは御霊に逆らい、御霊は肉に逆らうからです。この二つは互いに対立していて、そのためあなたがたは、自分のしたいと思うことをすることができないのです。

「そのためあなたがたは、自分のしたいと思うことをすることができないのです。」という言葉、私たちはどのように理解すべきなのでしょう。 クリスチャンの自由とは、こう言うことではありません： 「私は自由だから、やりたいことや望むことは何でもできる！」と言っているのではありません。 クリスチャンの最も深い願ひは、主イエスに似た者になること、つまり聖なる者となることです。 ヘブル人への手紙 12 章 14 節にあるように、聖書はこう教えています。

「すべての人との平和を追い求め、また、聖められることを追い求めなさい。聖くなければ、だれも主を見ることはできません。」私たちの望みが聖なるものに対してであることを知れば、私たちは何をやるかだけでなく、それをやる時にもイエスを喜ばせたいと思うようになります。

多くの場合、神のタイミングは私たちのタイミングではありません。 また、聖さとは単なる感覚や、あるいは、内なる罪との戦いからの解放ではなく、世俗的な生き方から切り離されていることを特徴づける、あるいは誰の目にも明らかな生き方をするものであることを忘れてはなりません。 神への愛の奴隷は、自分の自由に対する制限や越えてはならない線がある人生を追求する中で、完全な自由を感じることを学びます。 神の愛がどれほど偉大であるかを学ぶにつれ、私たちは天の父が最もすべてを知っておられることを学びます。

私たちが古い性質に打ち勝つのを助けてくれるもう一つの実事は、次のことです。

私たちの現在の「神の前での立場」、「キリストにおける正しい立場」を理解することです。自分の立場に自信を持っているクリスチャンは、霊的な戦いの最中に、古い性質と悪魔のどちらが自分の味方なのか混乱することはありません。ローマ人への手紙のこの箇所は、クリスチャンの体の中にいる敵、私たちの古い性質との戦いに焦点を当てています。

数週間前にローマ人への手紙 3 章 14 節を読んだことを思いだしてください：

[すべての人は]、キリスト・イエスにおいて[与えられる]贖いによって、神の恵み（主の無償の好意と憐れみ）によって、自由かつ無償で義とされ、神との正しい関係に置かれます。

すべての人とはキリストを信じる人です。さて、（ローマ 7 章 19-20 節）において、パウロは（ローマ 7 章 15-18 節）で述べたことを、少し用語を変えて繰り返しています。

19 私は、自分でしたいと思う善を行なわないで、かえって、したくない悪を行なっています。

20 もし私が自分でしたくないことをしているのであれば、それを行なっているのは、もはや私ではなくて、私のうちに住む罪です。

最近「新生」したばかりのクリスチャンは、自分の内面や魂に聖さへの新たな望みがあるのを目の当たりにすると、たいへん非常に驚き、驚きます。これは喜びであり、御霊の実を実際に経験することになります。これが真の喜びです。イエスに従うある時点で、クリスチャンは自分の中にまだ残っている古い性質の力に、同じように驚いたり、ショックを受けたりするかもしれません。パウロは、キリストに心から従う者の中にある「罪の原理」が、時にクリスチャンの内側から喜びを奪ってしまうことを教えているのです！

私たちクリスチャンは、いわば「雑音」を発している古い性質とサタンの声の違いを知ることが重要です。私たちは罪の引き寄せを感じ、サタンは私たちの体の内側にある「邪悪な思いと邪悪な考え」に屈服させようとするかもしれません。しかし、内なる戦いはサタンのせいにはできません。むしろ、私たちは内なる腐敗を感じ取っているのです。

内からの誘惑も外からの誘惑も罪ではありません。サタンに対抗する御霊の剣は、サタンに対して神の御言葉を語ることです。私たちの肉や古い性質に対する勝利は、神への祈りから始まります。これらの約束は、神が私たちに敵対するのではなく、私たちのために共におられると言われたことを思い出させてくれるでしょう。しかし、神はそれを忘れてはいません！私たちは、戦いの勝利の結果をもたらすために、主、主の御言葉、主の御霊を信頼するよう、自分たちに言い聞かせているのです。

ローマ人への手紙 6-7 章は、罪と闘っているクリスチャンは、一部の異端者が教えているように、悪霊に取り憑かれているのではないと明確に説明しています。異端者とは、聖書の考え方

に大きな誤りがあり、それを重要な真理であると宣言しているクリスチャンのことを指しています！ 罪を犯しているクリスチャンも、聖霊を内に持つクリスチャンであることに変わりはないです。神は、ご自分の神殿をどんな悪魔とも分かち合いません！ **罪との戦いに敗れることの多い苦闘中のクリスチャンたちは、単に古い性質に取り憑かれているだけで、その欲望や欲望に屈しないことをまだ学んでいないのです。** ローマ人への手紙で、使徒パウロがそのような戦いから免れたわけではないことを知ります。

聖霊は、神の子どもたちが古い罪の性質に打ち勝って自由に歩む方法を学ぶために、約 2000 年前にローマの教会に宛てたパウロの手紙のこの部分を書くように励ましました。しかし、神の御霊が、神の神殿である私たちの肉体を、私たちの古い性質と共有しておられることは、本当に驚くべきことです。そう、クリスチャンの体は聖霊の神殿、幕屋です。コリント人への手紙 第一 6 章 19 - 20 節に示されるように、「19 あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。20 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさい。」

このような愛...このような不思議な愛！ 神は私たちを愛してくださるのです！ しかし、これらの葛藤は、栄光への歩みを妨げようとする悪魔の攻撃と同じように、イエスのために生きたいと願う私たちの生き方を妨げるかもしれません。しかし、**私たちはイエスの足元に座り、イエスの御言葉に耳を傾けている学生なのです。**

ローマ 7 : 21 「そういうわけで、私は、善をしたいと願っているのですが、その私に悪が宿っているという原理を見いだすのです。22 すなわち、私は、内なる人としては、神の律法を喜んでいのに、23 私のからだの中には異なった律法があって、それが私の心の律法に対して戦いをいどみ、私を、からだの中にある罪の律法のとりこにしているのを見いだすのです。」

今週、OIC のために、このメッセージを準備していたとき、私は、罪深い行動ではないが、健康に有益でない行動をやめられない弱さについて、同じような例を経験しました。冬の乾燥が始まると、強いハンドソープを使わないように気をつけたり、食器を洗うときにビニール手袋をはめたりするのを忘れると、手に湿疹ができます。そして、最近になり、治療が遅れたため、かゆみが増しました。今、このメッセージを書いているとき、もう片方の手で炎症を起こしている手を搔くのを止めることができません。自分でも気づかないうちに搔いていたのです。これは私たちの古い罪の性質と同じ原理です。ローマ人への手紙 7 章 21 節にあるように、「私は、善をしたいと願っているのですが、その私に悪が宿っているという原理を見いだすのです。」これはいわば、痒いところを搔くようなもので、私たちがコントロールできない自動的な反応のようなもの

です。そして22節「すなわち、私は、内なる人としては、神の律法を喜んでいるのに、そして23節「私のからだの中には異なった律法があって、それが私の心の律法に対して戦いをいどみ、私を、からだの中にある罪の律法のとりこにしているのを見いだすのです。」

クリスチャンの罪を犯したいという欲望は、罪を犯さないという自分の心、つまり新しい性質で決めたことよりも強力に感じられます。一時的な害しかない湿疹を搔いてしまう私の弱さとは異なり、私たちは皆、罪を犯したいという願望に打ち勝つために真剣に祈らなければなりません。罪は私たちを神から引き離します。たとえイエスの近くを歩けなくなる瞬間があったとしても、それは私たちを不安にさせるはずです。それは実は、慰め主が私たちに「善い戦いをしなさい」と警告しているからです。私たちは罪に打ち勝つために祈らなければなりません。私たちが戦う自由を用いなければ、罪が私たちの主人となってしまうからです。

誠実なクリスチャンは、罪を犯してからでないで自分が罪を犯したことに気づかないことが多いです。私たちは、聖霊がそれを確信したらすぐに告白しなければなりません。罪を犯した瞬間は意識していなくても、私たちは罪深い欲望に負けてしまったからです。私たちがすべての罪からきよめようとする神の熱意を知れば、すぐにきよめられない理由はありません。イエスはすでにその罪の赦しを支払ってくださったのです。しかし、その罪を告白しないことは、私たちがすでに聖さにおいて完全な者であるという自己欺瞞につながるかもしれません。

パウロにとっても、すべてのクリスチャンにとっても、私たちの古い性質に関する真理は否定的に見えるかもしれません。しかし、ちょっと待ってください！ **イエスにおける勝利**への理解をもたらすために、否定的な事実を含んでいる**真理**が、本当に否定的であるはずがありません。私たちの主イエスは、次のように言われたのではないのでしょうか。

ヨハネの福音書8章32節「そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」さて、このメッセージの冒頭の一節を振り返ってみましょう：「私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。」（ローマ7：24）

クリスチャンの古い本性との戦いを描写したこの聖句は、クリスチャンをむしろ憂鬱な状態に陥れる可能性があります。これらの事実は、私たちの愛する父なる神が、パウロが自らの体験的なクリスチャン生活から分かち合ったことを生み出すために意図されたものなのです。しかし、私たちクリスチャンが知る必要のあるこれらの事実はすべて、自分自身に焦点が当てられていることを理解してください。チャールズ・H・スポルジョンはかつてこう言いました：「祈りの時間を自分のことに集中してから始める人は、幸せな気持ちで始めたとしても、すぐに落ち込んでしまうだろう。しかし、イエスに目を向けて献身的な時間を始める人は、喜びと力を得るための霊

的なパンと飲み物を得ることができる。そして、王との栄光の謁見を感じ、私たちは自信を持って、天地の主である王に戦いの助けを求めることができる。」王であるイエスがいつでも私たちに手を差し伸べてくださることを理解し、ローマ人への手紙7章25節からローマ人への手紙8章にかけての聖書の箇所は、私たちがパウロのような悪い体験的な場所にいるときに必要なすべてを与えてくれます：「私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。」

ローマ7.24において、パウロが、自分の古い罪深い性質、死のからだの束縛が、一見無敵のように見えますが、その束縛と力を表現するために使った例えや言葉についてコメントしたいと思います。

この言葉は、1世紀の既知の世界のほとんどを含むローマ帝国の領域内の聴衆に恐怖と不安と嫌悪感を与えるでしょう。ローマ軍は、十字架による磔刑を完成させていました。十字架による磔刑は、犯罪者にとって非常に苦痛を伴う、残酷で時間のかかる死に方でした。また、死刑を宣告された犯罪者の背中に手かせをはめたり、金属の鎖をロープのように使って死体を縛り付けたりして、犯罪者を殺していました。死体が腐れば、当然、病気が発生し、生きている人間は死んでしまいます。使徒パウロがこの表現を選んだのは、罪が私たちの聖なる神にとっていかに邪悪で嫌なものであり、また私たちにとってもそうであるべきかを説明するためだけでなく、罪は背中だけでなく体の中にもあるため、生きている限り罪を取り除くことができないことを示すためでもあります。

しかし待ってください。パウロは次の節（ローマ7：25）で、自分の哀れな束縛を宣言していたのに、どうして感謝に切り替えられるのでしょうか？

神に感謝しなさい！私たちの主イエス・キリスト（油注がれた方）を通して！だから、わたしは、心と思いと神の律法に仕えているが、肉とは罪の律法に仕えています。

Amplified版では、この聖句の中にある注釈が、その疑問に端的に答えています：[神は助けをくださる]

使徒パウロは、神が古い性質に縛られた自分を解放し、敗北の時期から救い出してくださるといふ確信を持っていました。

教訓その1

使徒パウロが自分の古い性質との戦いの中で感謝したのは、父なる神が主イエス・キリストを通して、全能の力と力によって自分を救い出してくださることを知っていたからです。 私たちも、栄光への歩みを忍耐強く続ける中で、そのような確信を深めることができます！ しかし私た

ちは、イエスが私たちの人生を支配し、統治してくださることを望む心の玉座に、古い性質が乗り移らないように抵抗しなければなりません。しかし、この戦う自由は、私たちが勝利のために主を待ち望む間、永遠のように感じられるかもしれません。

勝利のマスターズ・スクールの多くのイエス信者は、預言者イザヤを通して語られた聖書の一節を暗記しています（イザヤ 40 : 31）。「しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかって上ることができる。走ってもたゆまず、歩いても疲れぬ。」

次にパウロは、私たちに勝利をもたらす内なる力の源として、三位一体のもう一つの位格である聖霊を強調しています。私たちは戦いの兵士ですが、最終的な勝利は約束されています。神はモーセに勝利を約束されました。モーセは、馬が引く戦車でエジプト軍に追い詰められていたイスラエルの民を率いていました。（出エジプト記 14 : 13）「それでモーセは民に言った。「恐れてはいけません。しっかり立って、きょう、あなたがたのために行なわれる主の救いを見なさい。あなたがたは、きょう見るエジプト人をもはや永久に見ることはできません。」

モーセの神は私たちの神です。私たちの勝利は確実です。コリント人への手紙第二 3 章 17 節に「主は御霊です。そして、主の御霊のあるところには自由があります。」

（ローマ 8 : 1）、この次の節の配置は、霊的なダイナマイトです.....クリスチャンの苦闘は、真理のための事実のこの次の聖句の中で、飛ばされます.....。

「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。」（ローマ人への手紙 8 章 1 節）

聖霊がパウロに靈感を与え、書き記すように励ましたので、前の節からの疑いや落胆に対するストップ・サインとして、この文をここに記したのです。これは、自分の古い性質との戦いに負けていると感じているクリスチャンのためのものです。私たちに励ましてくださる神が、パウロに次のように書かせたように、パウロはさらなる強さのために、この言葉を土台にしています（ヘブル人への手紙 6 章 18 節）「それは、変えることのできない二つの事がらによって、——神は、これらの事がらのゆえに、偽ることができません。——前に置かれている望みを捕えるためにのがれて来た私たちが、力強い励ましを受けるためです。」

そして、ローマ 8 章 1 節を黙想するとき、詩篇 28 篇 6-7 節で詩篇の作者が述べたように、私たちはこう言うかもしれない。

6 ほむべきかな。主。まことに主は私の願いの声を聞かれた。

7 主は私の力、私の盾。私の心は主に抛り頼み、私は助けられた。それゆえ私の心はこおどりして喜び、私は歌をもって、主に感謝しよう。

教訓その2

すべての罪は、私たちの背中にある腐った人間の死体のように恐ろしく、悪質なものです。しかし、ローマ人への手紙7章にあるように、クリスチャンが罪を犯すことは、故意の罪とは違います。クリスチャンの故意の罪とは、罪を犯そうと計画することであり、しばしば繰り返されるなら、それは習慣となります。例えば、楽器を練習することは、より良い習慣を身につけ、より良い音を奏でることにつながります。故意に罪を練習することは、悪い習慣や苦しい生活をもたらし、イエスから離れていく。故意に罪を犯すということは、あなたのために死んでくださるほどあなたを愛してくださった方のそばから離れ、離れないようにしようと企むことです。パウロが（ヘブル10:26）ですべてのクリスチャンに警告しているように：「もし私たちが、真理の知識を受けて後、ことさらに罪を犯し続けるならば、罪のためのいけにえは、もはや残されていません。」

このローマ人への手紙の教えは、故意に罪を犯すことと、罪と戦い、時には戦いに敗れることの違いを明確に示しています。

（ローマ8章2-4節）にあるように、私たちの自由と祝福された保証は、より高い平原、さらには高い山へと築き上げられます。「なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。3肉によって無力になったため、律法にはできなくなっていることを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪のために、罪深い肉と同じような形でお遣わしになり、肉において罪を処罰されたのです。4それは、肉に従って歩まず、御霊に従って歩む私たちの中に、律法の要求が全うされるためなのです。」

ある意味で、イエスが私たちのうちに啓示される前、私たちは死の谷でもがき苦しんでいました。ユダヤ人にとっては律法、非ユダヤ人にとっては善悪の感覚が、私たちを殺していました。私たちは、キリストの犠牲を受け入れ、律法（戒めや善悪）のもとから解放されました。そして私たちは霊的な山頂に立ち、すべての罪が赦されたことを知りました。しかし残念なことに、後になって私たちは、自分の外側にいる敵だけでなく、自分の内側にいる敵、つまり自分の古い性質とも戦わなければならないことに気づきました。そのため、私たちは再び谷に引き戻され、敗北が近づいていると感じるようになります。（ローマ8:1-4）にある神の見解によれば、神の目には、私たちは再び神の山の頂上にいることとなります。：「キリスト・イエスにあるいのちの御霊の律法が、あなたがたを罪と死の律法から解放したからです。」（ローマ人への手紙7章23節）。

上記の聖句には、「律法」と「法」の両方が記されている。この2つの「律法」を説明し、ローマ人への手紙のこれらの節の意味の詳細を引き出している Expositor's Bible Commentary (EBC) からの次の引用に、私は全面的に同意します。

「... (ローマ 8.2-4) の構成は、罪責からの自由という考えを超えて、罪の支配が打ち砕かれ、神性の支配が保証されるような形で、聖霊によるキリストの贖いの業が信者の生活に適用されることへと、私たちを導いています。名詞「非難」は、動詞「非難される」(ローマ 8章3節) と対をなしています。{ 律法が肉を通して弱かったためにできなかったことを、神はなされたのである。ご自身の御子を罪深い肉に似せて送り、罪のための供え物として、肉において罪を断罪された、} その直後に続くのは、信者の法的地位に関する記述ではなく、信者の生き方に関する記述である(ローマ 8章4節) このように、「断罪なし」には法医学的な{法的な立場}と実践的な力{日々の生活}の両方がある。」

読者へのメモ - (上記の EBD は太字で) {わかりやすくするためにブルース牧師が挿入した箇所}。

新しい性質が古い性質に勝つために戦っているクリスチャンに対する神の備え、それは内在する聖霊です。これらの聖書の箇所は、苦闘しているクリスチャンが、信仰によって義とされるという安全な立場を喜ぶだけでなく、内在する聖霊が今ここで彼の人生に勝利をもたらすことを確信することができることを教えています。

キリスト・イエスにある者に罪の宣告がないとは、地上の人生の終わりだけを意味するのではなく、聖霊の力が今、聖なる生活に影響を及ぼすことも意味します。クリスチャンが望む完全な自由とは、罪の欲望が内在しない完全な者とされることであり、それはまだ実現していません。クリスチャンがこの地上において罪深い情熱に打ち勝つために、私たち自身の力ではなく、聖霊の力によって今、聖なる生活をするのが「すでに」なのです。

EBD の引用を続けます: **ローマ 8章2節** { **キリスト・イエスにあるいのちの御霊の律法が、あなたがたを罪と死の律法から解放したからです** }。それは事実上} からの解放に集中することで、この実践的でダイナミックな側面を即座に取り上げている。{通り抜けられない、あるいは屈しない} 罪と死の支配から解放され、{上の方}からの聖霊の働きによって信者は2節を通して自由を得ることができる。「法」と言う言葉は{律法とここでは「原則」という意味で比喩的に使われている.....、「律法」とは、(死に導く) 罪と(命に導く) 御霊を特徴づける、確実に規則正しい動作を示す。「いのち」は、超自然性と自発性の両方を強調し、それゆえ、御霊の働きの方が罪の働きよりも優れている。御霊は、私たちに罪の奴隷的な力からの自由を与えてくださるのです」。

新しい性質が古い性質に勝つために戦っているクリスチャンに対する神の備えは、内在する聖霊です。勝利は、御霊の働きが罪の働きに優越することによって保証されるのです。イエスの十字架上の死は、イエスを信じるすべての人のために律法の要件を成就させました。聖霊は利用可能であり、私たちがイエスとの密接な関係の中で歩む力を与えてくださる。

教訓その1

使徒パウロは、自分の古い性質との戦いの中で、父なる神が主イエス・キリストを通して全能の力と力をもって救い出してくださることを知っているだけで、感謝している。 私たちも、栄光に向かって忍耐強く歩いていくときに、同じような確信を得ることができる！ しかし私たちは、イエスが私たちの人生を支配し、統治してくださることを望む心の玉座に、古い性質が乗り移らないように抵抗しなければならない。しかし、この戦う自由は、勝利のために主を待ち望む間、永遠のように感じられるかもしれない。勝利のためのマスターズ・スクールの多くのイエス信奉者は、預言者イザヤを通して語られた聖書の箇所を暗記している（イザヤ40章31節）。「しかし、主を待ち望む者は、新しい力を得る。」

教訓その2

すべての罪は、私たちの背中にある腐った人間の死体のように恐ろしく、悪質なものです。しかし、ローマ人への手紙7章にあるように、クリスチャンが罪を犯すことは、故意の罪とは違います。クリスチャンの故意の罪とは、罪を犯そうと計画することであり、しばしば繰り返されるなら、それは習慣となります。例えば、楽器を練習することは、より良い習慣を身につけ、より良い音を奏でることにつながります。故意に罪を練習することは、悪い習慣や苦しい生活をもたらし、イエスから離れていく。故意に罪を犯すということは、あなたのために死んでくださるほどあなたを愛してくださった方のそばから離れ、離れないようにしようと企むことなのです。パウロが（ヘブル10章26節）ですべてのクリスチャンに警告しているように：真理を知った後も故意に罪を犯し続けるなら、もはや罪のためのいけにえは残りません。

このローマ人への手紙の教えは、故意に罪を犯すことと、罪と戦い、時には戦いに敗れることの違いを明確に示している。

終りにあたって

義認 キリストにおける戦いと自由は、生まれ変わったクリスチャンが栄光の中でイエスと共に永

遠を過ごすための歩みの一部です。私たちは悪魔だけでなく、私たちの体の中にある古い性質とも戦うことを選びました。私たちの古い性質は、しばしば私たちに問題を与え、イエスとの交わりにおける平安と喜びに挑戦します。聖書にあるように、私たちの交わりは父と、その御子イエス・キリストとの間にあります。(ヨハネ1章3節)。イエスと共に歩み始めると、イエスが聖であるように、私たちも聖でありたいと願うようになります。しかし、私たちの古い性質はつまずきとなり、私たちの信仰の創始者であり完成者であるイエスに目を向けることを妨げます。信仰によって生きるために義とされ、信仰から信仰へ、そして恩寵から恩寵を受けながら栄光へと歩むという約束は、戦いの中では弱く感じられます。私たちは、使徒パウロが(ローマ7章24節)で神に憐れみを求めて叫んだように、しばしば感じるがあります：私は不幸で、情けなく、哀れな者です！誰が私を、この死のからだの束縛から解き放ち、救い出してくださいでしょうか。三位一体の第三位格である聖霊が私たちの内におられ、勝利を保証してくださるのです。キリスト・イエスにある私たちには何の罪もないと知っている私たちは、聖霊が罪と死の連鎖を断ち切ってくださいのように、私たちの戦いは無駄ではないと確信することができます。聖霊は、戦っているクリスチャンに勝利をもたらす...何度も何度も。OICにいる親愛なる兄弟姉妹よ、自信を持ってください。

祈りましょう。

参考文献

{ } - Pastor Bruce's added notes for clarity

AMPC - Amplified Bible, Classic Edition

EBC - Expositor's Bible Commentary (Abridged Edition): New Testament

Copyright 2004

NABRE - New American Bible (Revised Edition)

NASB - New American Standard - 1995 Edition